

デジタルオーラル | その他

## デジタルオーラル ( II) 76 ( P76)

### その他1

指定討論者: 金 成海 (静岡県立こども病院 循環器科)

## [P76-1]小児心臓カテーテル検査における全身麻酔導入後の代謝性アシドーシス発症頻度および危険因子の検討

○古宇田 絢子, 西部 伸一, 高岡 早紀, 箱根 雅子, 簗島 梨恵 (東京都立小児総合医療センター 麻酔科)

Keywords: 小児心臓カテーテル検査, 全身麻酔, 代謝性アシドーシス

【背景と目的】全身麻酔を受ける先天性心疾患合併患児では、術前絶飲食などが酸塩基平衡に悪影響を与える可能性がある。心臓カテーテル検査開始時の代謝性アシドーシスの発症頻度およびその危険因子について後方視的に検討した。【方法】2018年度に当院で全身麻酔下に心臓カテーテル検査を受けた6歳未満の症例を対象とした。検査開始時の血液ガス分析で重炭酸イオンが20 mEq/L未満を代謝性アシドーシスと定義し、代謝性アシドーシス群 ( A群) と非代謝性アシドーシス群 ( C群) に分け、年齢、身長、体重、出生週数、出生体重、性別、遺伝子疾患の有無、ASA-PS、チアノーゼの有無、内服薬、術前絶飲食時間、術前輸液、入室時刻、RACHS-Iスコア、CRISPスコア、血液ガスデータ、カテーテル検査データについて検討を行った。2群間の比較にはMann-Whitney testまたはFisher's exact testを用い、危険因子解析にはロジスティック回帰分析を用いた。【結果】6歳未満で心臓カテーテル検査を受けた227例のうち201例 ( A群43例、C群158例) を対象とした。代謝性アシドーシスの発症頻度は21.3%であった。A群はC群に比較して、血糖値 ( A群77 mg/dL [IQR 65, 86]、C群 87 mg/dL [IQR 79, 83])、SSVC02 ( A群 62.4% [IQR 56.5, 67.8]、C群 66.6% [59.6, 71.1]) が低く、RACHS-I、CRISPスコアが高い患児の割合が多かった (  $P < 0.05$ )。ロジスティック回帰分析では低血糖が危険因子と考えられた ( OR 0.939, 95%CI 0.912-0.966,  $P < 0.0001$ )。【考察と結論】低血糖が代謝性アシドーシスの危険因子であったが、術前絶飲食時間などと代謝性アシドーシスの間に関連は見出せなかった。